

# 立命館 災害復興支援室 瓦版

## かわらばん

【第2号】 2012年1月13日発行

【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】  
レポート 後方支援スタッフ派遣  
「クリスマス便」「年末年始便」  
ボランティアバスを運行

立命館災害復興支援室では、クリスマスと年末年始の期間、被災された方々の暮らしの応援を目的とした「後方支援スタッフ（ボランティア）」を派遣しました。  
12/21（水）夜出発、12/27（火）朝帰りの日程で実施したクリスマス便には、学生5名と職員等2名が参加。続く12/28（水）夜出発、1/2（月）朝帰りの日程で実施した年末年始便には、学生13名、職員2名が参加し、岩手県遠野市と、被災した沿岸地域でのボランティア活動を行いました。

**レポート：第1便「クリスマス」便**  
クリスマス便メンバーは、岩手県遠野市に拠点を置く民間組織・NPO法人「遠野まごころネット」が実施する「サンタが100人やってきた！」プロジェクトメンバーとして、全国から集まったのべ500名以上の個人ボランティアの方々とともに、サンタクロースの扮装で仮設住宅の玄関前にプレゼントを配布した他、関連イベントのサポートを行いました。

<プレゼントに添えるメッセージカードの準備>  
「サンタが100人やってきた！」プロジェクトは12/23から12/25まで実施されました。岩手県遠野市に到着した立命館スタッフは、プロジェクトスタートを翌日に控えた12/22（木）には、プレゼントに添えるメッセージカード2万枚の準備を担当しました。



<遠野市自治会館&消防センターで宿泊イベントの実施組織「遠野まごころネット」は、遠野市、地区住民の方々と連携し、期間中に全国から集まる個人ボランティアに対し、無料宿泊所を準備し、立命館メンバーも現地滞在中、遠野市の地域の方々が管理する施設のひとつである、遠野市第13区自治会館、および大日地区コミュニティ消防センターのスペースをお借りし、寝袋で寝起きしました。  
滞在中の朝食や夕食の際には、区長さんご夫妻が温かいお味噌汁やおかずの差し入れをいただきました。

<サンタプロジェクト期間中の活動>  
プロジェクト開催中、立命館メンバーは、12/23は膨大な数に上るプレゼントの積み込みや個数管理の他、サンタの装束を着て大槌町北小仮設商店街、仮設住宅でのプレゼント配布に参加。12/24は大槌町の仮設住宅や温かいお味噌汁やおかずの差し入れをいただきました。  
12/25も仮設商店街でのプレゼント配布の他、大槌町のショッピングセンターにて店舗スタッフの方々と一緒にプレゼント配布やゲームコーナーの運営を行いました。



<クリスマス便・参加スタッフの声>  
Q：参加前と後で自分の中での変化は？  
A：東北の地域、特に大槌・遠野など自分にとってものすごく身近なものとして感じられるようになった。メディアなどで被災地的事を見聞きするたびに自分が関わった方々の事を見出し、東北の方々の気持ちをほんの少しだけ、推し量ることができるようになった。（経営・3回）  
A：想像よりも現地は復興に向かって印象を受けました。しかし、前向きな一歩を踏み出している人とかまだそうは思えない人、踏み出そうとしている人がまだ邪魔している人など、様々な人がいるなど感じました。（理工学研究科M1）

**第2便「年末年始」便**  
年末年始便メンバーは、大槌町復興支援ボランティアセンターでの瓦礫撤去や清掃活動を行った他、本学O Bが設立した組織で、遠野市に拠点を設けた大槌町で活動中の「大槌復興刺し子プロジェクト」事務局を訪問し出荷作業のサポートを実施、大晦日の年越しは大槌町に滞在しました。

<被災した方、支援する方の声を聞く>  
年末年始便では、2日間の大槌町でのボランティア活動の際、職場の釜石市で被災した大槌町住民の女性の方と一緒にグループになり、活動の合間に地震前の町の様子や地震直後のお話、現在の町の人々の率直な思いについてお聞きすることができました。「大槌復興刺し子プロジェクト」事務局での活動の際は、震災以降、女性の働き口が少ないことや、プロジェクトでは様々な状況の女性たちが刺し子に携わっている事をお聞きしました。  
年越しは、有志メンバーが大槌町にある「おらが大槌復興食堂」の年越しイベントをサポートし、大槌町で新年を迎えました。



<年末年始便・参加スタッフの声>  
Q：最も印象的だったことは？  
A：年越しを被災地で被災者の方々と過ごした事。特に津波で家を全壊した女性からお話をたくさん聞くことができ、震災前後を記憶することの重要性を知りました。大槌町にかつて町があった事、たくさんの方が普通の生活を送っていた事、何も無くなってしまったけれど亡くなられた方々の力強く生きていこうとする人々がいる事などを日本人の人が記憶し続ける事に意味があると感じました。（経営・4回）

**2月・3月も後方支援スタッフ派遣を計画中です。詳細は確定し次第、ホームページ等、学内に向けて広く告知を行う予定です。**

## スポーツ健康科学部による復興教育支援事業

昨年からスポーツ健康科学部は岩手県大船渡市との連携のもと、震災で校庭に仮設住宅が設置されるなどで活動条件が制限される生徒の運動・体力向上支援について、大船渡市立赤崎中学校、大船渡中学校、第一中学校への現地調査を進め、支援プログラムの具体化にむけた検討を進めてきました。

こうしたなか、11/21に文部科学省より被災地における多様な主体による特色ある教育支援の取り組みや今後必要となるカリキュラムや教育プログラムの作成を支援する「復興教育支援事業についての（公募）」が公表され、スポーツ健康科学部として大船渡市での支援計画を申請。昨年末には文部科学省より委託予定の通知を受けました。引き続き大船渡市の中学校と協議を進め、生徒の運動・健康面の向上を支援に取り組めます。

## 12/9-11 気仙沼被災地で現地調査を実施

（政策科学部 周教授ゼミ）

12/9-11 政策科学部の周ゼミ3回生4名が「立命館大学東日本大震災に関する研究推進プログラム」である『複合型災害の救援・復興のための「政策特区」構想と未来型エネルギー最適化システムのエコデザイン』（研究代表者：政策科学部周璋生教授）の関係研究者4名と共に、気仙沼市において研究調査を行いました。  
今回の現地調査を通じて、「今後の津波からの避難体制」、「情報伝達の遅れに対する対策」、「防災集団移転推進事業の現状と課題」、「都市工学的な問題解決だけではとらえきれない人文・社会科学的な課題の解決アプローチの必要性」等の課題の

## これからの主な取り組み

**立命館未来プロジェクトフォーラムの開催について**  
10月から開催を続けてきました立命館未来プロジェクトでは、引き続き、自然科学系・人文社会科学系および横断的な分野のテーマでのフォーラム開催を検討しています。今回は2月中旬を予定。  
**後方支援スタッフ（ボランティア）の定期的な派遣**  
立命館・遠野拠点後方支援プロジェクトでは、2012年2月・3月の定期的な「復興支援スタッフ（ボランティア）」による現地での活動を計画しています。詳細はあらためてご案内させていただきますが、学生・教職員の積極的な参加をお待ちしています。引き続きご協力をお願いします。

<それぞれの取り組みの詳細については、今後、HPや瓦版でお伝えします>

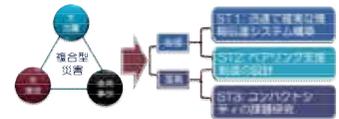
立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

他、漁業に従事する住民の方々の「先祖代々の土地や家があるから漁へのパワーが出る」、「育った土地を捨てるわけにはいかない」などの声。また「ベアリングシステムへの期待と日本への導入可能性と課題」、「中国の四川大地震復興支援システムの経験」などの情報を収集しました。参加者からは、「どうしたら被災地を迅速に復興できるか、我々には何ができるか、何をすべきかをもう一度真剣に考えさせられる機会になった」との声が届いています。



竣工式には地元の方々がたくさん集まり、建物内では音楽ライブも開催されました。

複合型災害の救援・復興システムに関する政策的研究



## 1/9 宮古市重茂「仮設集会所の建設プロジェクト - ODENSE -」竣工式開催（理工学部 宗本准教授）

理工学部宗本晋准教授と学生31名が約5ヶ月かけて建設した仮設集会所が宮古市の重茂地区に完成し、1/9 地元の人たちを招いて竣工式が開かれました。  
この取り組みは「私たちの提案-教職員の取り組み-」でもあり、8月から現地のヒアリングを開始し、試作を繰り返しながら、11月より着工。当初は竹を使用した簡易な施設を検討していましたが、ヒアリングの結果、多くの人数で利用できる屋内スペースが必要であることや、ニーズを把握し、完全屋内型でトイレ、炊事場、量約15畳分のスペースなどを盛り込んだ、ドーム型の集会所となりました。コミュニティの中心として地域のシンボルになるよう、サッカーボールを半分に切ったような形状が特徴的です。

この取り組みは学園HPトップページで紹介されています。『宮古復興支援プロジェクト - ODENSE - について』  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/mirai/content.html/>

## 未来へのおくりもの (AERA 朝日新聞出版)での東日本大震災に関わる研究推進プロジェクトの報告

7月に採択された「東日本大震災に関する研究推進プログラム」の取り組み状況を「未来へのおくりもの」としてAERA（朝日新聞出版）紙上に掲載しています。また今後も2月にかけて、順次掲載予定です。これは学園HP R S web 未来へのおくりものでも紹介されています。  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/category/okurimono/>

## 編集後記

まだまだ寒い日が続きますね。東北では一層厳しい寒さだと思えます。支援室では、被災地の方々からでもあたたかい気持ちになれるような取り組みをこれからもさらに行っていけたらと考えています。引き続き、復興支援に関する情報発信を行ってまいりますので、また、みなさんからの情報、ご意見・ご感想をぜひお寄せください。  
**立命館大学災害復興支援室瓦版【第2号】**  
発行人・編集 立命館災害復興支援室  
075-813-8130（総合企画課内）  
メール 311fukko@st.ritsumeai.ac.jp